学びの深化

校内研究だより　No.３
令和２年１２月４日

研究主題　「考えることを楽しむ！」

～文教大学付属小学校型　アクティブラーニング
学びの深化を目指して「自分の考えをもち、伝え合い、高め合う力を育む」～

令和２年１２月３日(金)、今年度第３回目の研究授業を行った。今回も第１回に続き、講師として「授業・人(じゅぎょう・ひと)塾」塾長 田中博史先生にお越しいただいた。

第３回目は、１年２組谷島教諭と３年２組濵崎教諭の提案で、算数の授業研究を進めた。今回の提案は、両教諭が普段の授業でも悩んでいる「授業の導入」部分についての研究であった。

研究は、まず谷島教諭が「どちらが　ひろい」の単元、濵崎教諭が「はしたの大きさを　かんがえよう」の単元の指導案を発表し、その後グループに分かれて、それぞれの単元の導入部分に関する話し合いが行われた。

「どちらが　ひろい」の単元では、谷島教諭の提案である「レジャーシートを用いた広さ比べ」についての意見交換と、他の教諭グループが考えた導入の提案が話し合われた。「レジャーシート」以外の提案として先日１年生で見学に行った動物園から「さるの檻の広さ」で考える案や、「ドッジボールのコートの広さ」で考える案など、様々な導入展開が提案された。

「はしたの大きさの表し方を考えよう」の単元では、濵崎教諭の提案である「木材を 1/4mずつに切ろう」についての話し合いが行われた。３年生は、図工の授業で木材を切る作業をしているため、導入として「木材」を扱うことにしたようだ。また、濵崎教諭は、1/3 にするか 1/4 にするか、数値の設定についての提案もあったので各グループで話し合い、考えを発表していた。

どちらのグループも共通して言えたことは、「子どもたちの身近なもの」を導入として扱い、子どもたちの学ぶ意欲を引き出していこうということだった。子どもたちが、「どうしてこうなるのだろう？」と疑問を感じたり、自分から「調べてみたい」と思ったりできる授業の導入を、今回の研究であらためて考えさせられた。

最後に講師の田中先生から、導入は単元計画に沿って教師が初めにめあてを持つが、言い方をかえてしかけをしていくことによって、子どもたちに学習課題に気付かせていく。そうして子どもたちが主体的に授業を進めていくことができるようになる、とお話を伺った。